キャラクター名

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	探偵	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	感染	衝動	自傷	初期侵食率	30 %
出自	犯罪者の子	経験	小さな名誉	邂逅	自身

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	0	0	1			1
精神	6	1	0			7
社会	2	0	0			2

HP	29
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		ＲＣ			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：	2		芸術：			知識：	1		情報：	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：特異点	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ノイマン	2	2	メジャー	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	-	
効果： C値-Lv(下限7)								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	射撃	-	
効果： 組み合わせた判定を【精神】で行う								
常勝の天才	3	6	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	視界	ｼｰﾝ(選択)	-	ピュア	
効果： ラウンド中対象の攻撃力＋Lv×4　自身対象不可　1シーン一回								
天性のひらめき	2	4	-	-	-	-	-	
効果： C値-Lv(下限7)　戦闘中使用不可　あらゆる判定に組み合わせ可								
勝利の女神	2	4	オート	視界	単体	自動	100%	
効果： 判定の達成値を＋Lv×３　ラウンド１回								
暗号解読	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 言語や情報に強い。暗号解読お手の物								
プロファイリング	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： ちょっとした情報から人物像を推理。真実を暴く。ホームズ								
究極鑑定	★	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果： アイテムひとつの来歴や作成方法、使い道を知れる。操作は出来ない。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

未熟児として生まれ、高校生の今もそこらの女子よりも身体が小さい事がコンプレックス。
物心ついた頃から母親は居らず、男手一つで育てられた。父はいつも自宅にいて働いている様子がないのに、まるでお金に困っている様子が無いのが不思議であった。
小学4年の時遊園地に連れて行って貰った時に、父と黒ずくめの男との怪しげな取引現場――と言うより一方的に脅されている父を目にする。
あまりの衝撃に目を奪われ、背後から近づいてくるもう一人の男に気が付かなかった。
後頭部に衝撃を受け倒れる時、それまでずっと毅然としていた父の顔が崩れるのが目に入る。
「やめろ、息子だけは手を出さないでくれ！」そんな父の声を薄っすら聞きながら気を失い、目が覚めたら身体がオーヴァードになってしまっていた！
FHセルの研究員として黒い金を貰っていた父が、良心の呵責に耐えかね組織を逃亡。セルの追手に捕まり、奴等が見せしめとして実験段階のオーヴァード覚醒薬を息子である自分に投与し、殺そうとしたという真相を知ったのはそれから数年後のことになる。
運良くUGNに保護された父と自分は一命を取り留め、以後UGNの下で監視兼保護のついた生活を送っている。

FHセルの連中が投与したオーヴァード覚醒薬は、奇跡的に体に馴染みノイマン能力者として無事覚醒。天才的に頭が良くなったお陰で、ゴタゴタに巻き込まれて学校に行けないことが増えても、どうにか成績を落とさず誤魔化し続けられている。
それにしてもやたらと事件が舞い込んでくる。UGNのエージェントにも「調子に乗って変な事件に首を突っ込むな」と釘を刺されているが、事件のほうから此方に手足を突っ込んでくるんだから仕方ない。（特異点）
開き直って高校に通う傍ら「探偵家業」を始めた。父の収入も途絶えてしまったので、UGNの補助金に頼れないところは自分が恩返しを兼ねて親孝行せねば。
何故だか行く先々で出会う事件に辟易し、警察に不審な目で見られること数年、表向きの顔として「高校生探偵」の名前がそろそろ有名になっていた。学校でもちょっとした人気者になって楽しい。
UGNとは気が向いた時にイリーガルとして手を貸す程度の付き合いに留めている。命の恩人の組織ではあるが、この身に宿る能力はその組織が綺麗な純白でないことも敏感に感じ取ってしまって参る。
FHにもUGNにも一定の懐疑的な視線を向け、あくまで中立から少しUGN寄りを意識して立ち回っている。